

《第3版》

環境経営レポート



有限会社 創建

《 目 次 》	1
1. 事業概要	2
1) 事業者名及び代表者	2
2) 所在地	2
3) 環境管理責任者	2
4) 連絡先	2
5) 事業活動	2
6) 事業規模	2
7) 対象範囲	2
8) 推進組織	2
2. 環境経営方針	3
3. 環境経営目標	4
4. 環境経営目標の実績	4
5. 環境経営計画と取組評価	5
6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	6
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟の有無	7
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	7

1. 事業概要

1) 事業者名及び代表者名

有限会社 創 建
代表取締役 市原 四男

2) 所在地

・本社・倉庫 〒880-2323 宮崎市高岡町浦之名5000番地
・資材置場① 〒880-2323 宮崎市高岡町浦之名茶屋原5062
・資材置場② 〒880-2324 宮崎市高岡町浦之名茶屋原5069

3) 環境管理責任者

市原 四男（代表取締役）

4) 連絡先

連絡担当者：森 尚美
TEL：0985-89-1217 FAX：0985-89-1282
E-mail: soken-y@topaz.plala.or.jp

5) 事業活動

建設業・・・許可番号・・・(般-29)第009758号
認可業種・・・土木一式工事、とび・土工・コンクリート工事

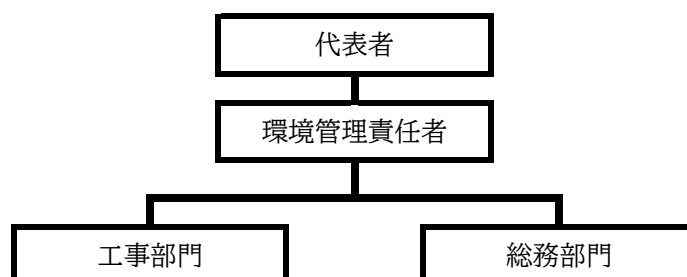
6) 事業規模

項目	2020年	2021年	2022年	2023年
従業員数	4	4	6	4
工事等の件数	4	4	5	2
事務所床面積(㎡)	70	70	70	70
倉庫面積(㎡)	80	80	80	80
資材置場面積(㎡)①	2,000	2,000	2,000	2,000
資材置場面積(㎡)②	500	500	500	500

7) 対象範囲（全組織・全活動）

- ・対象組織・・・全 社(本社・倉庫、資材置場①、資材置場②)
- ・対象活動・・・建設業(土木一式工事、とび・土工・コンクリート工事)
- ・対象期間・・・2023年4月1日～2024年3月31日
- ・環境経営レポート作成日・・・2024年9月5日

8) 推進組織



2. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

基本理念

私たちは、事業活動が与える環境負荷をしっかりと認識し、環境負荷の削減などの環境保全活動を行うことは重要な社会的責任であり、事業活動の重要課題と位置づけて、全社員一丸となって持続可能な社会の構築に努力します。

基本方針

- 1, 環境経営に積極的に取組む為、EA21マネジメントシステムを構築して、環境経営の継続的改善に努めます。
- 2, 事業活動に関連する法令・条例・その他、地域との取決め事項等を遵守します。
- 3, 事業活動から発生する以下の環境負荷を重点項目として、優先的に取組みます
 - ①. 電力・化石燃料などの消費量節減による、二酸化炭素排出量の削減
 - ②. 事業所や建設現場で発生する廃棄物の削減と再資源化推進
 - ③. 節水活動による水使用量の抑制
- 4, 新技術活用や創意工夫により、安全且つ効率的施工に努めます。
- 5, 環境に配慮した施工・工法を推進し、現場周辺の自然環境保全に努めます。

以上は全従業員へ周知し、環境経営レポートで積極的に公表します。

制定 2021年 4月 1日
有限会社 創 建
代表取締役 市原 四男

3. 環境経営目標

過去1年間の環境負荷及び環境への取組みの自己チェックから、中期(3ヶ年)の目標値を設定しました。

取組み項目 (目標項目)(単位)		実 施 区	第 一 次 中 期 環 境 経 営 目 標			
			基準値 (2020年4月～ 2021年3月)	2021年度 (2021年4月～ 2022年3月)	2022年度 (2022年4月～ 2023年3月)	2023年度 (2023年4月～ 2024年3月)
二酸化炭素排出量の削減(kg-CO ₂)		全社	24,927	24,682	24,438	24,193
1 ・ エ ネ ル ギ ー	①電力使用量の削減 (kWh)			基準比0.5%削減	基準比1.0%削減	基準比1.5%削減
		事務所	2,347	2,362	2,350	2,338
	②ガソリン使用量の削減 (L)			基準比1.0%削減	基準比2.0%削減	基準比3.0%削減
		全社	1,932	1,912	1,893	1,874
	③軽油使用量の削減 (L)			基準比1.0%削減	基準比2.0%削減	基準比3.0%削減
		現場	7,583	7,508	7,432	7,356
2 ・ 廃 棄 物	①一般廃棄物の削減 (kg)			基準比0.5%削減	基準比1.0%削減	基準比1.5%削減
		事務所	43.7	43.5	43.3	43.0
	②建設副産物の再資源化率向上 (%)	現場	92%	再資源化率95%以上		
3. 水使用量の抑制		事務所	環境経営計画の遵守を目標としています			
4. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善		全社	環境経営計画の遵守を目標としています			

* 事務所の水は社長宅とメーターがひとつの為計量できません。このため、節水活動の実施を目標とします。

* 建設副産物の再資源化率は再資源化量÷総排出量×100

* 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善は、当該環境経営計画を遵守する事を目標としています。

4. 環境経営目標の実績

* 2023年4月から2024年3月までの実績は以下の通りです。

取組み項目		実施区	目標値	実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)		全社	24,193	32,907	73.5%	×
	①電力使用量の削減 (kWh)	事務所	2,338	2,856	81.9%	×
	②ガソリン使用量の削減 (L)	全社	1,874	2,241	83.6%	×
	③軽油使用量の削減 (L)	現場	7,356	10,329	71.2%	×
2 ・ 廃 棄 物 の 削 減	①一般廃棄物の削減 (kg)	全社	43.0	31.1	138.4%	○
	②建設副産物の再資源化率向上 (%)	現場	95	100 (153.79t)	105.3%	○
3. 水資源使用量の抑制		全社	活動計画の遵守	活動計画を遵守	—	○
4. 自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善		全社	活動計画の遵守	活動計画を遵守	—	○

* 購入電力の二酸化炭素排出係数は、令和3年1月公表の九州電力調整後排出係数0.371を使用しています。

* 現場の灯油使用を含めた全社の二酸化炭素排出量は、33,231.0 kg-CO₂です。

5.環境経営計画と取組評価

取組項目	活動内容	推進責任者	取組結果	評価
・電気使用量の削減	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する	総務部門	不在時の消灯やエアコンの温度調整等を徹底して節電をしていますが、夏場の熱中症対策や冬場の暖房等でエアコンの稼働が増えた事と、年度末の事務作業が多かった事で、81.9%の目標達成率となりました。	○
	②パソコン、コピー機等のOA機器は省電力に設定する	総務部門		○
	③空調温度管理の徹底 (夏28℃程度、冬22℃程度)	総務部門		○
・ガソリン使用量の削減	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップ、急発進及び空ぶかし防止)	工事部門	・エコドライブや現場への相乗り通勤を徹底しましたが、遠方現場があった事や比較的規模の大きい現場があった事などで、83.6%の目標未達成となりました。今後も、相乗り等を徹底して省エネに努めます。	○
	②現場への相乗りを推進する	工事部門		○
	③発電機や建設機械等のこまめな アイドリングストップの実施	工事部門		○
・軽油使用量の削減	①重機や建設機械等はできるだけフルパワー操作をしないようする(アクセル7割運動等)	工事部門	比較的規模の大きい現場があった事で重機作業が増えて軽油使用量が増加して71.2%の目標未達成となりました。ただ、こまめなエンジンストップや重機のフルアクセル抑制などは徹底して実施しています。今後も、こまめなエンジンストップや出来る限り重機のフルパワー抑制を推進して省エネを図ります。	○
	②車両等のエコ運転とこまめなエンジンストップ	工事部門		○
	③作業規模に応じた建設機械等の種類や規格を用いてエネルギーの消費を抑える	工事部門		○
・一般廃棄物の削減	①資源物を再生利用できるように分別する (最終処分量の削減を目指す)	総務部門	紙・用紙の節減を主な活動として実施しています。裏紙使用や縮小・両面紙等を推進して、排出量は31.1kgで目標達成となりました。	○
	②紙・は裏紙使用や両面、縮小、集約紙・に努める	総務部門		○
	③紙・トナーカートリッジや用紙梱包箱などは納入業者に持ち帰ってもらう	総務部門		○
・建設副産物の再資源化率の向上	①資材発注時は仕様書を再チェックして在庫の確認を行い残材発生抑制	工事部門	・現場発生の廃棄物をできるだけ抑えるため、資材発注時の在庫確認を徹底して取組んだ結果、残材の発生はありません。また現場での産業廃棄物は全て再資源化材であった為、再資源化率は100%の目標達成となりました。	○
	②残材が発生したら、持帰り分別保管 (再利用の推進)	工事部門		○
	③廃棄物の処理はできるだけササイクル業者へ依頼する	工事部門		○
・水使用量の抑制	①水道配管からの漏水を定期的に点検する (全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認)	総務部門	3ヶ月毎に漏水点検実施しています。	○
・自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	①環境配慮型の建設機械を使用する (排ガス対策型、低騒音型、低振動型等)	工事部門	工事現場では、低騒音型機器・重機の使用等、騒音対策、及び振動や粉塵の発生を極力抑制するように施工しています。又、出来る限りの工期短縮を図っていますが、天候に左右される事が多くあります。	○
	②自主的に騒音・振動・粉塵・水質汚濁等の環境対策を講じて施工する	工事部門		○
	③しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む	工事部門		○

6.次年度の環境経営目標と環境経営計画

取組項目	目標(2024年度)	活動内容
二酸化炭素排出量の削減	27,540 kg-CO2	省エネ・省資源活動の徹底
・電気使用量の削減	2,597 kWh (事務所)	①不在箇所、不要箇所及び昼休み時は消灯する ②パソコン、コピー機等のOA機器は省電力に設定する ③LED照明や省電力照明機器、省電力型機器へ転換を推進
・ガソリン使用量の削減	2,210 L (全社)	①エコドライブの徹底 (アイドリングストップ、急発進及び空ぶかし防止) ②現場への相乗りを推進する ③段取良い前準備で忘物をなくし、折返し運行の撲滅。 ④不要なものを積んだままにしての走行はしない
・軽油使用量の削減	8,209 L (現場)	①重機や建設機械等はできるだけフルパワー操作をしないようする(アクセル7割運動等) ②車両等のエコ運転とこまめなエンジンストップ ③作業規模に応じた建設機械等の種類や規格を用いてエネルギーの消費を抑える
・一般廃棄物の削減	38.8 kg	①資源物を再生利用できるように分別している ②コピーは裏紙使用や両面、縮小、集約コピー努める ③コピートナーカートリッジや用紙梱包箱などは納入業者に持ち帰ってもらう
・建設副産物の再資源化率の向上	95%以上	①資材発注時は仕様書を再チェックして在庫の確認を行い残余材発生抑制 ②残余材が発生したら、持帰り分別保管する ③廃棄物の処理はできるだけリサイクル業者へ依頼する
・水資源使用量の抑制	節水活動	①水道配管からの漏水を定期的に点検する (全蛇口を止めて水道メーターの動きを確認する)
・自らが施工する土木建築物の環境性能の向上及びサービスの改善	該当する環境経営計画を順守する。	①環境配慮型の建設機械を使用する(排ガス対策型、低騒音型、低振動型、エコ操作型等) ②自主的に騒音・振動・粉塵対策を講じて施工する ③しっかりした工程管理で常に工期短縮に取り組む

基本的にはこの活動を徹底するためにも、当初の環境経営計画を継続するが、社会環境や会社の状況の変化などによっては、目標及び活動内容は変更する場合がある。又、他に効果的・効率的な活動が確認された場合は、随時取り込んで活動する。

7.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

当社の事業に係る環境関連法規は、環境省の情報やWebによる情報検索等で常に最新情報等を把握し、法規制一覧としてまとめて3ヶ月毎に順守状況を確認しています。尚、環境関連法規制の遵守状況確認を実施した結果、違反はありませんでした。また、関係当局からの指摘、及び地域住民からの訴訟も過去一度もありませんでした。現場での遵守状況は、安全パトロールや安全会議時などでも確認しています

当社の事業に係る主な環境関連法規と遵守状況は以下の通りです。

法規名	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約の締結、マニフェストの交付	遵守
	回収・照合確認(発行後B2,D票90日E票180日以内) A表の5年間保管	遵守
	産業廃棄物管理票交付等状況報告(6月30日までに知事へ報告)	遵守
	保管場所の掲示板設置	遵守
建設リサイクル法	発注者への書面による計画等説明、完了報告	遵守
	工事着手する日の7日前までに必要事項を都道府県知事に届け出	遵守
	分別解体、再資源化促進、再生資源の利用促進	遵守
フロン排出抑制法	・定格出力7.5kW未満の業務用エアコン等の簡易点検実施 (重機搭載のエアコンを含む)	遵守
騒音規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて85デシベル以下	該当工事なし
振動規制法	・知事へ7日前までに届け出 ・作業敷地境界にて75デシベル以下	該当工事なし
浄化槽法	・年1回の清掃と年3回の保守点検の実施 ・年1回の法定点検の実施	遵守

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

2021年4月から再度エコアクション21環境活動に取り組み始めて3年が経過しました。運用開始当初から懸念していましたが、現場の化石燃料消費量は現場の内容に左右されて、我々の活動の結果が数値に現れない事も多々あります。ただ、何もしないよりは遥かに燃料消費量を抑えていると思います。その結果が地球温暖化防止等持続可能な社会の形成に少しでも役立てばとの思いで、このエコアクション21環境活動を継続して取組ます。